

## 過去班のメンバーによる感想

Aさん

過去班のリーダーになって、最初は人数が少なくスムーズに進められるか不安でしたが、少人数ながら発表の仕方を考えて実行することができました。一人ひとりがテーマに沿って研究し、過去班のみんなが「今までで一番やりたかったことを調べられた。」と言っていて、悔いの残らない発表をすることができました。現地調査は原田池の観察をし、昔と現在の違いについて調べることができました。劇の台本づくりでは、みんなで意見を共有し合いながら作ることができました。発表の練習の改善点を出し、何を伝えたいのかを考えたりもしました。発表の流れをスムーズにし、聴きやすいように一人ひとりが真剣に向き合い、良い発表を作り上げることができました。

Bさん

過去班では、今年、一人ひとりが興味のあるテーマについて調べることができたので、毎時間集中して、楽しみながら調べることができました。小さな劇も入れながら、見ている人が楽しめるような発表ができました。調査の段階では、図書室の本やインターネットを使って調べました。自分が調べたいテーマで正確な結果を得られたかはわかりませんが、自分が納得できる発表ができました。発表の仕方について、先生方からアドバイスをもらった際、見ている方が楽しんでわかりやすくするために、強調したい部分の文字の色を変えたり、言い方を変えたりして、改善することができました。最後のうつしの祭だったので、思い出ができて良かったです。

Cさん

わたしはうつしの祭の総合的な学習の時間では自分のやりたかった内容を深く学ぶことができました。町名の名前の考察では実際にその町に行って手がかりになるものを探したりマップを使って地形を調べてこれらの材料を元に考察ができました飛び地は実際に行くことができなかったから分かりやすく伝わるようにしました。発表ではしっかりハキハキと喋りよりつたえやすく工夫しました。

Dさん

うつしの祭の準備は何ヶ月も前からやっていて、たくさん練習してたくさん直して今の状態まで持っていくことができたから良かったです。自分の聞いてほしい所や実際に行って伝えたいことなどをたくさん練習したからこそ今までのリハーサルするとき以上の発表を本番はすることができたから良かったです。

今年は、今までとは違うやり方になるなど色々な事があったけど、それはそれでしっかり対応して、完成まで持っていくために時間も少なかったけど、空き時間や、家に持って帰って練習するなどして今年のやり方に合わせて頑張ることができました。強調したい所は、話すときに大事な所の前とあとに間を開けるなどして強調することを意識して、大事な所を伝えられるように工夫できました。わかりやすくするという意味と、見ている人が飽きないようにという意味のもと、スライドに絵を加えながらわかりやすくまとめられるように工夫しました。最後に大事な所を言葉だけの強調ではなくて、文字の色を変えるなどをしてわかりやすくすることができれば、よりいい発表をすることができたかなと思いました。

Eさん

今年度のうつしの祭は、昨年と開催形式が変わり、私は少し戸惑いながら準備をスタートしました。総合的な学習の時間では、私は過去班としての参加でした。昨年との人数の差が大きく、発表形式も一人ひとりの発表になりましたが、その分自分が知りたいことを探求していったので、とても有意義な時間を過ごすことができたと感じています。文献調査では、自ら更科地域の歴史に目を向けることで深く理解することができ、一方の現地調査では、文献調査でわからないところを自分の目で確認し、更に追求することができました。発表では、誰が見てもわかるような言葉遣いを徹底し、より伝えたいことを明確にまとめることができました。全体を通して、今年度は臨機応変に動き、自分の役割に誇りをもつことができました。最初は少し戸惑いましたが、仲間たちと協力し、ここまで作り上げることができたのでとても嬉しく思っています。これは、支えてくれた先生方や家族、ともに歩んでくれた仲間たちのおかげだと、今回振り返ってみて大きく感じました。私はこれからも、自分のこと以外にも視野を広くし、全校を支えていけるように尽力していきたいです。改めて、更科中学校の一生徒として、うつしの祭に参加できたことを嬉しく思います。これからも、更科の伝統と魅力を、たくさんの人に語り継いでいきたいです。